



第 283 回 つくば分子生命科学セミナー

TSUKUBA MOLECULAR LIFE SCIENCE SEMINAR

演題：トキソプラズマ原虫における寄生適応の分子機構の解明

演者：永宗 喜三郎 先生

筑波大学 筑波大学生命環境科学研究科

若手イニシアティブ

日時：2009年2月18日（水）17:00～18:30

会場：臨床講義室 B

要旨：トキソプラズマが属するアピコンプレクス門には、マラリア原虫やクリプトスポリジウム原虫など人類にとって大きな脅威となっている感染症が含まれている。またアピコンプレクス門原虫の大きな特徴の一つとして、アピコプラストと呼ばれる葉緑体が退化してできたオルガネラの存在があげられる。演者らは最近、トキソプラズマが植物ホルモンであるアブシジン酸を産生しており、このホルモンが原虫において感染の成立やシストへの分化に必須であることを明らかにした。今回のセミナーではこのようなトキソプラズマの植物的機能の探索や宿主細胞との相互作用についての研究において得られた結果について議論したい。

（参考文献）

Nagamune, K. *et al.* Nature (2008) 451, 207-10

連絡先： 人間総合科学研究科 榎正幸 （内線 3248）

【筑波分子医学協会（TSMM）主催】 HP <http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/tsmm/>

セミナー担当 筑波大学基礎医学系 塩見健輔